

ふるさと

第29号



河津桜と富士山：西平畑公園

目次

2019 第3回麻生ふるさと交流会 ……	(1)
“地域に一步が30年”：講演要旨 ……………	(5)
ふるさと二つ 思い深く ……	(10)
【北海道関連】	
松浦武四郎・三重が生んだ偉人 ……	(15)
北海道の思い出・地名 ……	(16)

発行：2020年2月29日（第29号）
発行：麻生ふるさと交流会事務局
担当：平塚 征英、横田 彰夫

麻生ふるさと交流会

た

表紙写真：土屋隆夫 様（かよおう会）
タイトル：河津桜と富士山：西平畑公園
年 月 日： 2020.2
場 所：松田町、西平畑公園
記 事：かよおう会・歩こう会の2月
例会が中止となり、下見の際に撮影
された写真を提供して頂きました。

「麻生ふるさと交流会」ホームページ
<http://web-asao.jp/hp2/asao-furusato/>

2019年度・第3回麻生ふるさと交流会

場 所:麻生市民交流館 やまゆり
日 時:2019年10月5日(土)
13時30分～17時00分
参加人数:36名、懇親会:28名

第1部 麻生ふるさと交流会:.....(13:30～15:50) 司会 辻村副会長

1. 開会の辞.....辻村副会長

- ◇ 本日は10月にしては大変暑い中、お集まり頂きありがとうございます。
- ◇ ラグビーのワールドカップが開催され、日本は2試合連勝し今夜はサモア戦です。皆様応援しましょう。
- ◇ 海外からも大勢の外国人が来日されており、41万人とか、経済効果にも大きく貢献をしています。
- ◇ 今日の講演会の講師石井よし子さんが少々遅れているので、もう一つ

のテーマ、交流会の会員吉田さんより「あさお落書き消し隊」のお話を先に変更します。

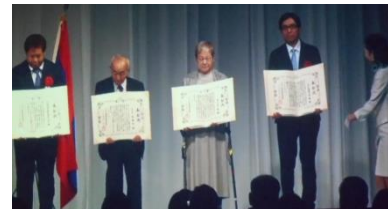


2. 講演会:「あさお落書き消し隊」.....(13:35～14:15)

講師:吉田 謙司 会員



- ◇ 公益財団法人社会貢献支援財団より、第52回社会貢献者として表彰を受けた。(上記財団 HP には記念式典や活動の動画もあります)



- ◇ 「あさお落書き消し隊」は、いわゆる“割れ窓理論”に基づいて、発見したら直ぐに消す事をモットーに活動を続けています。



記念式典





◇ 消してもまた直ぐに書かれる事もありますが、それも直ぐ消すことを繰り返し、次第に落書きも少なくなりました。



◇ 現在は年に1～2回の大規模な「落書き消し隊」活動を、区役所や区のホームページで呼びかけ、集まった区民・近隣企業などと共にしています。



◇ 情報を得る都度に行く、「出前落書き消し隊」も実施中です。



3. 講演会：地域に一步が30年 ～出会いと学びと喜びと～ ・・(14:20～16:05)

講師 石井よし子様(里山フォーラム in 麻生事務局長)

講演要旨をP5～に掲載しました。



- ◇ 生まれは秋田県能代市、ふるさと秋田・能代市のこと
- ◇ モルダウを歌う大陸育ちのお母さんに育てられたこと
- ◇ 多摩区より分区される前の長い多摩丘陵の麻生の地・柿生の地を、今後どのように“ふるさと”として受け継いでいくべきか



- ◇ 多摩丘陵で自然とともに暮らしを営んできた村、その暮らしの拠り所である丘陵を開発するということ、新しい街を作ろうということ
- ◇ 豊かな自然・暮らし・文化・人間性は、今後どのようにすべきか

◇ 麻生の散歩道(柿生の里の散歩道)



◇ 麻生の原風景(おっ越し山ふれあいの森)が寄付で残されたこと



◇ からむし(苧)のこと



◇ 我々の子孫・子供たちにとって、骨を埋める場所となるのか、子供たちにとっては“ふるさと”

4. 事務局からの連絡
5. 会歌「ふるさと」の合唱

第2部 懇親会 (15:55～17:00)

- ◇ 司会の宮本さんの指名で、宮河さんの音頭で乾杯。
- ◇ 今日の講師の石井よし子様から、名前の由来・生い立ちについてお話がありました。
- ◇ 懇親会の締めは久しぶりの新井さんをお願いしました。
- ◇ 今回も多くの方々から、有難い差し入れを沢山頂きました。有難うございました。

日本酒: 春泥(福島県)、瀬祭・島耕作(山口)…宮河・宮本さん





地域に一步が30年：講演要旨

～出会いと学びと喜びと～

石井 よし子

【生まれ故郷は】

- ◇ 秋田県能代市
- ◇ 白神山地からの米代川右岸の大自然に育まれた
- ◇ 大河・米代川の中・下流部で日本海に臨む
- ◇ 右岸左岸：大地の成立ちの違い、地域の違いを感じ取りながら遊び・暮らす
- ◇ 縄文遺蹟・遺物が多くあった。(大規模集落・ストーンサークル)
- ◇ 江戸時代：佐竹藩の久保田城、中世はの安東氏の檜山城
- ◇ 家では：北羽新報(地元紙)・秋田魁新報(県)・朝日新聞(全国)を読んだ。
- ◇ 言葉は：標準語と地元の言葉(方言)の両方が使われた。
- ◇ 読書は：和辻哲郎の風土・小林秀雄の歴史・中根千枝の文化人類学・菅江真澄の紀行文など。
- ◇ 自然と共に暮らす農・山・漁・村の人々、町場の人々(医師・教員・木都能代の工場労働者・お店・市役所・消防・警察・農協など)と接し話す機会が多かった。
- ◇ 五能線での汽車通学、津軽
- ◇ モルダウを歌う大陸育ちの母、ささらよりモダンバレエ、東京へ進学するのは必然だった。
- ◇ しかし、大都会東京で味わう存在の薄さ
⇒ 横(水平)も縦(垂直)も大事にしたい。

【麻生は：子どもの故郷 私の暮らす場所、骨を埋める場所？ ふるさと】

- ◇ いいまちであってほしいと切に願い、いいまちであるよう努めている。
- ◇ 子供たちが心の拠り所となる郷土の歴史と自然、人々のこころざしを後世に伝えたい。



(図は東津区のホームページより)



(市総合教育センターの資料から)

- ◇ 多摩丘陵で自然と共に、暮らしを営んで村を形成してきた長い時間。
- ◇ その暮らしの拠り所である丘陵(里地里山)を開発して、新しいまちを短時間でつくと、どうなるのかな？
- ◇ 豊かで優しい自然やそこでの暮らしの文化や沸き起って来る芸術は、培われる深い人間性は今後どうなっていくのかな？

- ◇ 都市開発と自然との共生を図る中では、その過程では、人間の叡智が必要とされるだろうと……。

《1989年》

- 「麻生市民館地域セミナー」企画委員に応募
- ◇ 企画委員として「はじめの一步」を踏み出す。代表事務局長を任せられる。
- ◇ 麻生区のことを思う迫力あふれる活動をしている先輩たちに出会う。
- ◇ まちの課題解決を探るとい目的が掲げられていた。
- ◇ 課題？ 解決？ ⇒ 先ずはまちを知ろう・感じよう・考えよう ⇒ 区内を歩き回る ⇒ 「まちかど探偵団」「まちはミュージアム」を始める。
- ◇ 14カ村の地元の歴史を背負った人々に出会い、お話を聞かせてもらう。村々の歴史や風土の違いに気づく。
- ◇ まちづくりのいろいろなプランの学習。
- ◇ 区民懇話会 県民懇話会 小学校PTA 副会長 区P 地域教育会議
- ◇ 公園緑地、川・水辺、古道、歴史、居場所等々の、それぞれのテーマを持つ委員がいた。
- ◇ 専門家との出会い。
- ◇ 参加し意見を交わす興味津々の区民の方々との出会い。
- ◇ 市の素晴らしい講座。

- ◇ 各区の面々に出会える良い会議、審議委員会。
- ◇ 実践と学習が一体化する場。

《1990年頃》

- 麻生区で子どもが遊べる公園を考える会に誘われ参加。
- ◇ 子どもの遊びと公園作りを学び、実践した。
- ◇ 川崎市制60周年記念公園(王禅寺ふるさと公園)。

《1988年》

- まちはミュージアム-遊歩道ファンクラブ設立
- ◇ まちの当事者となる。
- ◇ 現場に関わる。
- ◇ 柿生の里散歩道。
- ◇ おっ越し山ふれあいの森。

《2001年》

- 里山フォーラム in 麻生を立ち上げる。

《2002年》

- 麻生市民館社会教育指導員となる。
- 岡上分館嘱託職員。
- ◇ 知らずに蓄積されていた情報、人脈・今必要とされる学び感覚を活かし、地域の人々の幸せを願いながら。
- ◇ 公務として仕事ができる喜び。
- ◇ 一日24時間では足りない日々が続いた。

【麻生区ってどんなところ？】

- ◇ 昭和57年川崎市多摩区から分離…昭和40年代以降急速に都市化が進む。
- ◇ 区名・麻生の由来は…苧麻=生うる地。
- ◇ 多摩川流域と鶴見川流域の分水嶺上に立地。
- ◇ 市街化調整区域がある…黒川・早野・岡上・古沢。



【小学校では地域の自然や人々と学んでいます。】

- ◇ 麻生区内小学校…麻生、岡上、王禅寺中央、柿生、片平、金程、栗木台、真福寺、千代ヶ丘、長沢、西生田、虹ヶ丘、はるひ野、東柿生、南百合丘、百合丘。

- ◇ 多くの団体が各地区で活動しています。
- ◇ 三沢川流域(主に黒川地区)
 - ・はるひ野里山学校
 - ・水辺のある里山をまもる会
 - ・黒川 里楽塾
 - ・黒川青少年野外活動センター
 - ・小沢城址里山の会
 - ・川崎授産学園
- ◇ 五反田川流域
 - ・麻生多摩美の森の会
 - ・多摩美みどりの会
- ◇ 平瀬川流域
 - ・はぐるまの会 はぐるま工房
 - ・長沢はなみずき会
 - ・飛森谷戸の自然を守る会
 - ・津田山緑地里山の会
- ◇ 麻生川流域
 - ・森もりクラブ
 - ・万福寺・ふるさと緑地学び隊
 - ・万福寺人参友の会
 - ・新あさお生きごみ隊
 - ・麻生プレーパークを創る会
 - ・柿生郷土史料館
 - ・まちはミュージアム-遊歩道ファンクラブ
 - ・柿生の里クラブ
- ◇ 真福寺川流域
 - ・花と市民参加の会“コスモス”
 - ・吹込クローバーの会
 - ・日光さわやかクリーン会
 - ・麻生台フラワーガーデン
 - ・木こりの会
- ◇ 片平川流域
 - ・片平楽農倶楽部
- ◇ 早野川流域
 - ・がであん・ららら、ハーブカフェららら
 - ・早野聖地公園・里山ボランティア
- ◇ 黒須田川流域
 - ・虹ヶ丘おやじの会
- ◇ 鶴見川本川流域(岡上地区)
 - ・和光大学・かわ道楽
 - ・和光大学 地域・流域共生センター
 - ・NPO かわさき自然と共生の会
 - ・麻生市民館岡上分館
 - ・岡上郷土誌資料コーナー
 - ・岡上さとやま探検隊
- ◇ その他
 - ・麻生区子ども会連合会
 - ・麻生ヤマユリ植栽普及会
 - ・多摩野草の会
 - ・環境を考え行動する会
 - ・グループ「せっけんの家」
 - ・麻生区クールアース

【まちはミュージアム-遊歩道ファンクラブ】 【柿生の里クラブ】





【おっ越し山】 入口花壇



くい打ち



水やり

【里山フォーラム in 麻生】

足元の自然環境を保全し、里山の暮らしと共にあった文化を継承し、豊かなコミュニティづくりに寄与しようと活動する団体が集まって、2001年に「フォーラム」を開催。

- 1) 交流：活動の場に関わる人々や団体をつなぎ、学校などとの交流を深め、各活動の推進を図る。
- 2) 学習：里地・里山の環境と文化を再発見し、体験学習を通して次世代へ継承する。
- 3) 情報：受・発信をしながら、これからの自然と人間の共生＝里地・里山の環境と文化の醸成を進める。



【あさお里山子どもクラブ】



大麦・小麦



石臼で粉ひき



足で踏んで：うどんこね

- あさお里山子どもクラブ
- 里地里山ナチュラルリスト養成講座
- 里地里山カフェ塾
- だよりの発行
- わたしのまちのホッとする風景写真展
- フォーラムの開催



うどん：茹で上がり



【からむし】



からむし：市役所前



からむし引き



からむし績み・撚りかけ



からむし織り・小千谷



【万福寺にんじん】



植付け準備

収穫



【ナチュラリスト養成講座】



川の生態は？



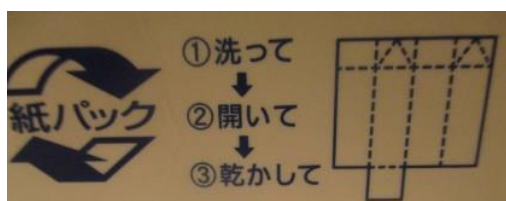
自然観察会

* 市民活動を始めたきっかけ

ある日、私の知人が店舗を訪ねてきました。牛乳パックの回収を、私の働いている店舗でできないかと言う話でした。販売促進部の上司を紹介し、牛乳パックの回収が月二回行われるようになりました。川崎市で初めてのケースでした。店頭でお客さまから手渡しで受け取る方式でした。市民のボランティア・本部の社員・牛乳メーカーの社員の手伝いがありました。牛乳メーカーの社員は牛乳パックの銘柄のチェックの方に興味があったようです。

大企業の中でヒープ(生活者と企業のパイプ役)と呼ばれて働いている女性がいる事や全国ヒープ協議会がある事などを知りました。機会があってヒープ協議会全国大会に出席する事ができました。各業種の各メーカーの方々も勢ぞろいしていました。

質問のコーナーで何百人の出席者の一番後の席で手を上げていました。「牛乳パックがペーパーとして再利用できる事、牛乳パック回収がこれから全国的になる可能性がある事」を説明した後、「牛乳パックに“開いて乾かしてリサイクル”とイラストを入れて回収のPRはできませんか」と質問しました。「牛乳パックは広告に利用しているので、載せる事はできません」牛乳メーカーの解答でした。



帰って来て神奈川生協の議長をしていた友人にこの事を話すと「私がつけてあげる。」と言い二週間後には生協で販売する牛乳パックに表示されていました。

それから一年後には主たるメーカーの牛乳パックに表示されるようになりました。

こんなことがきっかけで環境問題に関わる事になりました。

小田急線新百合ヶ丘駅ができた翌年、新百合ヶ丘駅から徒歩七分の所に住み始めました。

山の中にできた駅で乗降者も少なくまるで、故郷会津にいるような感じの所でした。駅から家までの間にホテルが飛び交うのも二年ぐらい見る事ができました。田畑は休耕地になっていましたが、農家が点在してその庭に咲く花々、裏山の山桜や梅の花・竹林の景観を新宿から二十分の所に日本の原風景が残っていました。



駅前の開発が進み、南口には商業施設の誘致が待たれ、北口は区役所・音楽学校・映画学校などの文化施設ができました。

その一角にパチンコ店ができる事になって、設置反対をする事になり、子供会の役員をしていた私も呼ばれ町会で反対をする事になったのですが、この問題は一町会だけの問題ではなく麻生区全体の問題として考えるべきですと意見を申した為、PTAや市議会議員等の方と「パチンコ店対策協議会」ができ市への要望が行われました。

その時、今回講演をしてくれた石井よし子さんと知り合ったのです。私の娘も中学生に

なっていましたのでPTAのお母さんたちと活動を共にしました。集まる度にパチンコ店の問題と並行して新百合ヶ丘北口の農家が点在する地域の開発の問題が話し合われました。近くにできたスポーツセンター建設の時にパチンコ店が営業できるエリアに用途変更がされていたのです。

いよいよ明日からパチンコ店が開店すると言う前日、営業に関する市民とパチンコ店の条例を結びました。「私たちは子供たちのために何ができますか。」との問いに地元の地主さんたちから「白いリボンでもつけてパトロールでもしたらどうかい。」と言うので『白いリボンの会』をその場で作り条例が守られているかどうかパトロールをしました。

北口の開発の問題は避けて通れませんでした。かつて私は市議会議員の一人にこの森を野鳥が住む森として公園化して欲しいと要望を出したことを思い出しました。とにかくこの森の中を歩いてみようと言う事になりました。毎朝この森を散歩している音楽家の方、郷土史を研究している方、文化協会の会長さんらが一緒に歩いてくれる事になりました。

鎌倉古道と伝承される道は木が倒れたり草が伸び放題で、大変でしたが先生方の説明にこの森が単なる森でない事を知りました。『白いリボンの会』の主催で第二回の「鎌倉古道を歩く会」を行いました。文化協会の会長さんの口添えもあったのかもしれませんが、草は刈られ、倒木はベンチへと変わっていました。

生田緑地の調査を手掛けた先生と何処を残したら良いか、樹木の調査もした第三回目。シラカシ・アラカシ・ウラジロガシ・ヤブツバキ・ヒサカキなどの自然林の名残をとどめる樹種を主体として、ミズキ・ハウノキ・エノキ・コナラ・クヌギなど雑木林を構成する代表的な樹種にまじってスギ・ヒノキ・サワラなどがところどころに植林されて多摩丘陵の典型的

な樹林を形成しているところです。

平成元年ころから始まった活動は、石井さんが市民の立場で企画・運営をしていた麻生市民館の地域セミナーの企画委員として参加し、新百合ヶ丘北口の森のPR・開発の啓発をさせてもらうと同時に麻生区の歴史・農地・文化に触れることになりました。

知れば知るほど「麻生大好き」になり、この麻生の地域にある身近な自然とともにある地域づくり・まちづくりを啓発していきたいと本格的な活動が始まりました。川崎市の地域環境リーダー養成講座も受講し、自然環境教育の大切さを知りました。

* 環境問題への興味

「鎌倉古道を歩く会」は歴史家の先生がボランティアで講師をしてくださり、残っている古道を繋ぎながら、鎌倉まで歩いて行く事ができました。他の町の古道の残し方などもこの目で見る事ができました。

白いリボンの会の勉強会でアセスの事を学びたいと、川崎市役所のまちづくり局の局長を訪ねると、外出していると言うので、局長の机で待たせてもらう事になりました。普通なら局長の机なんて案内してもらえないのに、アンテナを張っている時って、思いがけないことが起きるものです。カレンダーにスケジュールが記入してあり、空いている日を把握できました。メモを置いて役所を後にして、後日講師に迎えることができました。

その後もこの局長とは、まちづくり局主催のガリバー地図と言う展示会で、他の局のイベントで会う時が多くなりました。時間の許す限り、うわさが立つほどお話をすることができました。まちづくり局の第一線に女性職員が必要である事、ゴミ置き場や通学路など女性ならではの目線で土地整理区画事業を計画する事が大切である事を提案しました。

この局長は「鎌倉古道を歩く会」にも参加してくれ、開発地域の森の実態をみてくれました。その後この開発はヨーロッパの街をイ

メージしていたものから、里山との共生を組み込んだ開発に変更された事を文化協会会長から報告がありました。

南口の商業施設誘致にも問題が起こり、巨大ゲームセンターのビルができるので、「白いリボンの会」で反対をして欲しいと言う小学生のお母さんたちからの要請でした。

「白いリボンの会」は反対運動の会じゃないよ。自分たちの問題は自分たちで解決するのですと、出店業者、麻生区に以前から店舗を構えている業者、役所、市議会議員とお母さんたちとの話し合いの場をセッティングしました。ゲームセンターは撤退しスポーツセンターが誘致されました。

バブルがはじける寸前に売り出された、南口のマンション開発には、川崎市地域環境リーダー養成講座を同じ期に卒業した女性が関わり、植栽の多いマンション群が建ち高価な価格でも即完売をしました。

北口の土地区画整理事業への一政党がらみの全面反対の反対運動が始まり、「白いリボンの会」も同じ輩にされ、一時は「緑」「緑地」と言うだけで非国民のような扱いをされるようになりました。「白いリボンの会」は解散。連絡協議会と言う形で緑地保全の話合いは続いていきました。

市民館の地域セミナーも行政主導の事業に変わり、企画委員全員は卒業する事になりました。その後立ち上げたのが、「まちはミュージアムー遊歩道ファンクラブ」と言う石井さんが中心の市民グループです。

余談ですが、森には精霊が宿しているのかもしれない。新百合ヶ丘北口の森が開発される事になって、作業員の人と話していた事を耳にしました。「奥の方から木を切ることが始まったんだが、鳥肌がたつようなゾッとするものを感じるよ」と

* 自然環境の活動について

地域セミナー企画委員と川崎市緑政課の職員と調査してできた柿生の里の散歩道の入り口に、地元の方が小さな小さな小山を川崎市に寄付してくれました。「まちはミュージアムー遊歩道ファンクラブ」が保全管理をしようと、寄付をしてくださった地元の方や川崎市の職員の指導でアズマネザサの刈りこみから始めました。暗い森は間伐や下草刈りを繰り返すと、大地で待っていた種が芽を出して花を咲かせました。

「まちはミュージアムー遊歩道ファンクラブ」が都市緑化基金を通して助成金を受けたことを機会に、麻生区で同じような活動をしている団体・グループや農業者との交流会を持ちたいと市民館社会教育振興担当に相談し、平成14年3月に「第一回里山フォーラムIN麻生」を開催することができました。以後市民館の市民自主企画事業・麻生区の協働推進事業として今日まで続いています。



自然環境教育として「あさお里山こどもクラブ」人材の育成や発掘をする「里地里山ナチュラルリスト養成講座」もなかなか人気で、麻生区以外からも受講生が増えております。

“雨の日や雨がやんだ後、クモの糸にキラキラ輝く雨粒がついているのを、見た事ありませんか？ どうしてクモの糸に雨粒がつくのでしょうか？ それはね。雨粒がついている所はネバネバしているのです。ネバネバはクモが歩く所なのです。ネバネバは横の糸にしかついていないのです”とあさお里山こどもクラブでの『木の実・草の実・不思議だね』のコーナーで講師の先生がこんな風にお話してくれ

るのです。

川崎市の地域環境リーダー受講修了生らの市民部会・企業部会・学校部会で取り組む、地球温暖化防止活動推進事業の自然エネルギーのチームで活動も始めました。

川崎市で一番早く太陽光パネルをつけようと、私を含む三人の女性で幼稚園・お寺・お店など屋根を貸して下さいとあちこち回りました。なかなか協力してくれる所はなかったのです。区役所の屋上に太陽光パネルをつけてもらおうと、区長に提案し話合いました。幸い区制二十周年記念事業の予算とイメージアップ事業の予算を使うことで、実現することになりました。

設置後は太陽光パネルを活用した環境教育をしたいことも要望し、麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会を設立して、区内の小学校に出前授業をしました。

太陽がエネルギーになることを、子供たちや先生は初体験のようで楽しんでいました。

* 裏磐梯地区パークボランティア

その様な自然環境活動を行っていた私に、環境省国立公園パークボランティアの活動ニュースが届きました。箱根や丹沢は近いけど、家を一步出るのは何処へ行こうと同じで、父や母が亡くなり故郷会津に帰る事も少なくなった今日、故郷の裏磐梯のパークボランティアをする事になったのです。

裏磐梯地区パークボランティアは沢山の研修を受け、各探勝路の巡視をして裏磐梯の植物を調査しました。沢山の植物がある事が分かりました。四季折々花々が咲き、裏磐梯は以前よりもさらに深く魅了されてしまいました。



最近の活動は外来種のオオハンゴンソウの防除作業が主流です。五色沼周辺は真っ黄色のオオハンゴンソウの花で埋め尽くされていたのですが、作業の甲斐があって、今はところどころに生息しているのですが、油断をしたらすぐ一面が黄色い花で埋め尽くされます。私たちパークボランティアがオオハンゴンソウの防除作業を始めてから、今まで五色沼周辺では見られなかった在来種のハンゴンソウが増えました。おもしろい現象です。

* 東日本大震災後の活動

麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会に東日本大震災後、原発反対が大きく取り上げる委員たちが多くなり、地球温暖化防止が忘れられようとしていました。

長年住んだ故郷を追われ何時帰れるかも分からない避難者の前で、一言の原発反対で済ます事はできませんでした。

川崎市にもメガソーラーができ、個人の家の屋根にも太陽光パネルがつけました。バイオマス工場もできて、初期の自然エネルギー活用促進は啓発できたと、私は実行委員会を去ることにしました。

そんな時、会女の時のクラスメートの発意が、震災后会津電力を立ち上げました。原発に変わるエネルギーと言う視点から始めたのです。最近興味があるのが、飯館電力の耕作放棄地を蘇らせるソーラーシェアリングです。長い間帰還困難地域で放置した農地を蘇らせるシステム。大きな希望です。

少しでも風評被害が続く会津への観光、過

疎が進む会津への移住、農産物の安全をPRするために麻生ふるさと交流会で事ある毎に、故郷自慢をさせていただいています。

会津会会報の編集に携わるにあたり、会津のできごとが知りたくてフェースブックを始め、多くの知り合いができました。その中でも出身地である磐梯町の若い人達との交流ができました。

還暦の中学の同級会の時、「毎年同級会をするなら、会費にプラスの金額を古希までの十年間で蓄積したもので、磐梯町の為に何かしませんか」と提案したのですが、「なんで、磐梯町のためにしなくちゃいけないんだ。」との返答でした。

同級生に呼びかけた磐梯町にできる事の私ができる事。磐梯町の宝発見です。磐梯町に住んでいる人や観光客に知って欲しくて書きつづった『おばんちやのつぶやき通信』拝啓磐梯町さまは、道の駅ばんだいに置いてもらっています。

それからしばらく時間が過ぎて、若い人たちが町の為に立ち上がったのです。その中のプロジェクトの一つのチームメンバーになりました。

した。今の時代メールで意見交換ができるので、遠距離でも共に行動しているかのようです。

自分たちの町を自分たちが考える。それは私が麻生区で行動してきた事でした。故郷磐梯町の人々に求めた事でした。父や母たちの世代が自分たちの町は自分たちでと、行動していた姿を見ていました。若い人たちの行動はとても嬉しい事です。

年々麻生区の雑木林・緑地は無くなっています。川崎市の他の区と比べたら、まだまだ里地里山が残っています。竹を切る事も木を植える事も草を刈る事も幾つまでできるか分かりません。

裏磐梯のオオハンゴンソウ防除作業も幾つまでできるか分からないけど、大好きな緑に包まれる作業です。次の世代にバトンタッチができる事を信じて、まだまだ続けていきたいと思っています。

最近届く田植えが終わった田んぼに映る磐梯山の映像。美しいな～と感じます。

ふるさと二つ想いは深まるばかりです。

松浦武四郎～ふるさと三重が生んだ偉人～

脇田 允夫

「松浦武四郎」は、伊賀の松尾芭蕉・松阪の本居宣長と共に、私の故郷【三重県】が生んだ歴史的偉人のひとりです。

【松浦武四郎】とは

■松浦武四郎(まつうら たけしろう)／江戸時代末期から明治にかけて活躍した探検家。



【略歴】

- ◇ 1818年：三重県松阪市小野江町(旧一志郡三雲町小野江)にて、松浦家の第四子として生まれる。
- ◇ 幼少期：伊勢街道沿いに生家があったため、幼い頃からお伊勢参りをする旅人に触れて育つ。
- ◇ 13歳～16歳：津藩の学者・平松楽斎の私塾に通う。
- ◇ 17歳～26歳：日本全国をめぐる旅に出る。
- ◇ 28歳～41歳：蝦夷地(北海道)の探査(6回)。アイヌ民族と深い交流。
- ◇ 51歳：政府で開拓使の判官として蝦夷地にかわる道名・国名・郡名とその境界の撰定に携わる。
- ◇ 68～70歳：大台ヶ原の探査(3回)。

- ◇ 70歳：富士山登頂。
- ◇ 1888年：71歳にて亡くなる。

若い頃から仏教に関心のあった武四郎の目は、さらに外の世界へ向き、中国・インドをめざしました。ですが、江戸時代の鎖国制度により渡航を断念せざるをえず、外国との貿易が盛んだった長崎に滞在していたんです。

そのときに「ロシアが蝦夷地に勢力を伸ばそうとしている」という情報を耳にします。そこで「蝦夷地」の情報の無さを痛感するわけです。

蝦夷地を調査し、その様子を多くの人に伝えることが、ロシアからの支配を免れること＝国を守ることになる、と考えた武四郎は、ここで自分の使命を見つけ、一旦郷里に戻り、再び旅に出て28歳から「蝦夷地の調査」を始めます。

蝦夷地調査のうち最初の3回は個人として調査しています。その功績が評判になり、幕府役人から調査任務を与えられ、後半3回の調査をしたんです。蝦夷地の調査結果を世に伝えるために、地誌学者・製作者・出版者(編集者・イラストレーター・デザイナー)・ルポタージュ作家などなど、武四郎は探検家の域を超えて、さまざまな顔を見せています。

そんな活動の中で明治政府の役人となり、開拓使として「北海道の名付け親」となるわけです(でも政府のアイヌ文化弾圧などに反発して、政府を半年ほどで辞職しているのもまたすごい)。

【「ホッカイドウ」＝「北にあるアイヌの人々が暮らす大地」】

武四郎が提案した蝦夷地の新たな名称は「北加伊道」でした。

「加伊(カイ)」にはアイヌの言葉で、「この大地に生まれたもの」という意味があり、武四郎は「北にあるアイヌの人々が暮らす大地」という思いを込めて、この名前を提案したそうです。

これが採用され、最終的に明治政府が「北海道」と字をあてますが、2018年には命名150周年を迎えました。

追伸：TVドラマ『永遠のニシパ ～北海道と名付けた男 松浦武四郎～』（作：大石静/主演：嵐・松本潤、深田恭子）が、NHK BSプレミアムにて2月1日(土)の19時20分から20時56分に放送されました。

北海道の思い出～私の記憶に残っている北海道～

宮本 直紀

北海道旅行は4～5回は行っているが、今でも北海道と言えば、脳裏に浮かぶのは60年ほど前の一人旅だ。

旅館も予約せず時刻表と一冊の観光案内本と均一周遊券を持って、上野発の夜行列車に乗った。

走って乗った青函連絡船・函館で夜景を見るまでの時間つぶしに見た映画「愛染かつら」・旭川のアイヌ部落・層雲峡・網走刑務所・襟裳岬・登別温泉での女性従業員10数人との混浴と100畳の大広間での宿泊・倶多楽湖の真っ青な湖面・旅は道連れになった島津製作所の青年との帯広同宿(800円)や雪印乳業の女性4人組との出会い等々。



青函連絡船



襟裳岬



登別温泉

それ以外にも後年訪れた知床五湖・利尻礼文・日本最北端駅の稚内や宗谷岬など記憶の片隅にはある。

札幌は仕事も含め何度か訪れたが、あまり強い印象は残っていない……古い事は覚えているが、新しいことはあまり覚えていない。これは認知症の初期状態かも？

北海道の思い出

辻村 一男

仕事に関係する思い出です。

昭和41年1月、札幌センターに赴任し道庁システム開発を1年半従事しました。

上野発、夜行寝台で青函連絡船経由。雪のため列車遅れて札幌には夜8時ごろ着きました。

札幌駅の温度計は \ominus 8度、とんでもない場所に来たな。どうしよう。

おかげで札幌雪祭りは2回見ることができました。

平成10年、会社の関連事業でコンピュータ専門学校に従事しました。

全国には10校点在し、全て自治体と関連で第3セクター学校法人です。

北海道は帯広と美幌にあり、定期的に理事として行き来していました。

その中で美幌は学生数が減少し、閉鎖のために理事長となって解散処置をしました。

学校法人の解散閉鎖は自治体(札幌市)との調整、資産をゼロにするなどノウハウは必要です。

この貴重なノウハウはその後生かすことはありません。

(幼稚園も学校法人なので同様の処理方法です。閉鎖は大変なので休眠で逃れている法人は多いです。)

思い出としての印象は「冬の北海道」です。

道路は解けたり凍ったりしますので、車は氷の上を走ります。タイヤは空転しながら走ります。

網走のオーロラ号、紋別のガリンコ号の砕氷船は強く印象に残っています。

札幌雪まつりの終了日の翌朝には直ぐに崩します。(事故を防ぐため)

北海道の夏は30度を超え、冬は \ominus 30度になり、夏冬の寒暖は60度以上となり、他の地域にはないでしょう。

北海道に「金作」を名乗る者が住んでいる。

金作 幸男

金作の名字の出どころは、福島県猪苗代町の寒村です。

戊辰戦争に敗れた会津藩の武士階級の一族は、極寒の未開地青森や北海道に遣られたようです。

その後、開拓要員として全国から北海道に入植があり、金作の一族の内からも海を渡った者がおりました。

今の中富良野町です。父の叔父が入植し一家を構え、私が中学二年生の時に訪れ歓迎されました。

その後、昭和のバブル時代に、開拓二世達は大都会札幌に暮らすようになりました。

今も、北海道の地に、「金作」を名乗っている者が住んでいます。

北海道の地名:伊達市・北広島市など

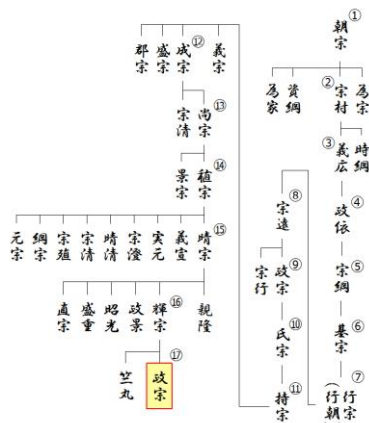
平塚 征英

私の出身地は茨城県筑西市で、合併前は下館市でした。

下館市の北方に中館観音があり、そこには伊佐城址碑があります。鎌倉時代には、この辺の伊佐荘や中村荘には、伊達家の先祖が住んでいました。第7代伊達行朝は、南北朝の合戦で敗れ、常陸の国から福島県の伊達郡に移った。仙台伊達藩の初代当主伊達政宗は、伊達家家系図によると第17代当

主に当たる。「政宗」は父・輝宗が伊達家中興の祖といわれる室町時代の第9代当主・大膳大夫政宗にあやかって名づけたもので、これと区別するため藤次郎政宗と呼ぶことも多い。

夏祭りの神輿を担ぐ人達は今でも伊達組と呼ばれており、旧下館市は伊達に関係が深い事を示しています。



神輿とハッピーの「伊達」

北海道の地名や駅名には、内地からの開拓・入植に際して付けられたものがあります。

① 開拓・入植者の名前に因む

- ◇ 池田駅(後に池田町)…元鳥取藩主の池田仲博から
- ◇ 伊達市…元仙台藩亙理伊達家を由来
- ◇ 八雲町…元尾張藩主の徳川慶勝が和歌に因んで

② 開拓・入植者の出身地に因む

- ◇ 新十津川…奈良県十津川村で大水害の災害を受けて600戸2489人が移住。
- ◇ 白石(現・札幌市白石区)…仙台藩白石領の藩士
- ◇ 北広島市…1884年に広島県からの入植者たちにより開拓され。1996年の広島町市制にあたり、

本家の広島と区別するために北広島市と名前が変わった。

- ◇ 岐阜県…北見市常呂町、岩見沢市栗沢
- ◇ 徳島県…せたな町北檜山区
- ◇ 兵庫県宍粟市…新篠津村宍粟
- ◇ 愛知県…せたな町北檜山区
- ◇ 鳥取県…釧路市
- ◇ 山口県…札幌市手稲区(手稲山口)
- ◇ 福井県…札幌市西区、後志管内二セコ町
- ◇ 熊本県…空知管内由仁町(ゆに)
- ◇ 栃木県…網走管内佐呂間町(さろま)
- ◇ 山梨県…後志管内倶知安町、赤井川村、胆振管内豊浦町

- ◇ 香川県…室蘭市、胆振管内洞爺湖町
 - ◇ 福島県…後志管内喜茂別町、網走管内湧別町
 - ◇ 宮城県…伊達市大滝区
 - ◇ 岩手県…宗谷管内中頓別町
 - ◇ 山形県…美唄市西美唄町、空知管内由仁町
 - ◇ 秋田県…宗谷管内中頓別町、網走管内置戸町
 - ◇ 高知県土佐市…北見市常呂
- ③ 開拓・入植者の希望・願望に因む
- ◇ 日進駅・瑞穂駅など…開拓の苦しみを反映して、将来の発展を願ってつけた。
 - ◇ 旧広尾線幸福駅と駅のあった集落名「幸福」…これは「乾いた川」を意味する「サツナイ」に「幸震」(さち・ない)の字をあてたアイヌ語由来の地名であったが、ここに福井県出身者が多かったことから、幸震の幸と福井県の福を合わせて幸福としたものの。

